

【ブギドノン地域の生計向上支援】
- 第7回現地活動報告 -

現地活動記録_参加者: 久米、Ms. Wilma、廻谷氏、秋本氏

2024年	活動	宿泊地
9月8日(日) から 9月14日(土)	・ダバオ市にあるアバカ商社の副社長とマニラで面談 ・PhilFIDA(フィリピン繊維産業開発庁)総裁を表敬 ・在フィリピン日本大使館書記官を表敬 *ダバオ市でのアバカ商社訪問予定の変更でマニラ滞在となった	マニラ
9月15日(日)	・マニラからカガヤンデオロ市へ移動	カガヤンデオロ
9月16日(月)	・Sitio Kibulag訪問 ・PhilFIDAの3名と協議	
9月17日(火)	・マライバライのアバカ農家訪問:アバカやバナナ繊維、カカオなど生産 ・Sitio Can-Ayan訪問:地区のリーダーに挨拶と意見交換	
9月18日(水)	・イリガン市へ:アバカ繊維抽出機製造の鉄工所とアバカ倉庫企業訪問	
9月19日(木)	・Flowing GrainのBobby氏の活動視察と意見や情報交換	
9月20日(金)	・活動のまとめ	
9月21日(土)	・カガヤンデオロ市からマニラに移動	マニラ
9月22日(日)	・マニラから羽田	帰国



活動地域(現場)

今回の活動場所及び活動を共にした人たち

1. 主な活動場所:表紙の右図及びこの右図を参照

2.カガヤンデオロ市を拠点に以下の3カ所を訪問

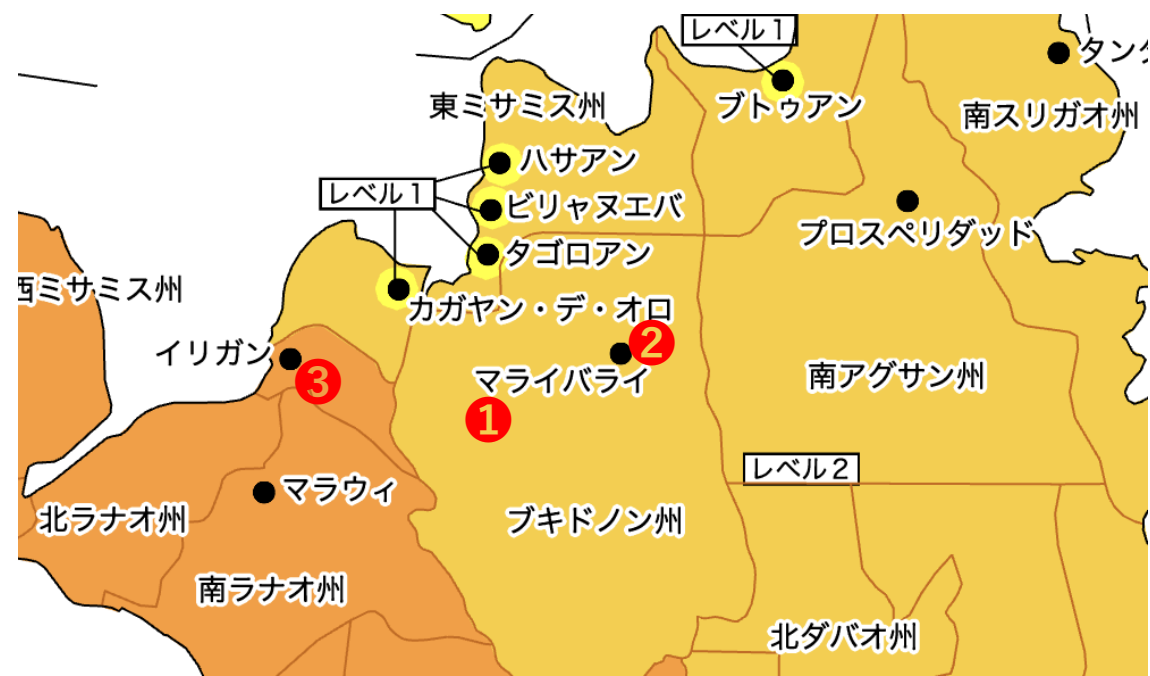
- ①アバカ1000本を植樹して支援しているLantud地区
- ②ブギドノン州の州都マライバライ市郊外のCan-Ayan地区
- ③アバカ集積や繊維抽出機械製造会社のあるイリガン市

2. 活動を共にした主な人たち

- NPO法人千葉国際人材開発 (CiIMD) の廻谷氏、秋本氏
- Lantud村の人たち
- Can-Ayan村のリーダーご夫婦
- Flowing GrainのBobbyさんと友人達
- PhilFIDA地方局の局長のユージンさんと技師のハーバードさんやマークさん

3. ミンダナオで新たに交流を始めた人たち

- 日本などへのアバカ繊維を輸出する商社のエリックさん
- アバカ抽出装置製造企業経営者アキノご夫婦と社員の方々
- アバカバイヤー倉庫業のオーナーのロバートさん



地図中の①がブギドノン州のLantud村付近

②がブギドノンの州都マライバライ市に近い

Can-Ayan村の大まかな位置

③はアバカ集積や繊維抽出機械製造会社のあるイリガン

出典:外務省ホームページ

フィリピンの危険情報【危険レベル継続】

主な活動紹介①&② - マニラでの出会い

10 September 2024



9月10日:ダバオ市FTI(繊維貿易会社)のEricさんと面談
Ericさんは、日本はじめアバカを輸出する商社であるTAG Fibers, INC (FTIは支社)という大きなアバカ貿易会社の副社長で、ミンダナオ島の貴重なアバカの現場を教えてくださいました。
今後相談役としてお世話になることとなります。

12 September 2024



9月12日:フィリピン繊維産業開発庁(PhilFIDA)表敬訪問
写真向かって右から、ウイルマさん、総裁 (Ms. Evelyn B. Cagayan MM)、計画部長 (Ms. Grace Aurora Pastores)、久米、技術支援部長 (Mr. Manolito F. Appalls)
ミンダナオのPhilFIDA支局とのコラボのお礼と今後の支援依頼。

16 September 2024

主な活動紹介③ - Lantud村の訪問



2月の訪問時に確認した1000本のアバカ苗木は、今回詳しくモニタリングできなかった。足場の良い場所の苗木の成長のみを観察したが期待外れだった。新しいコミュニティリーダーのアブダラさんは「申し訳ないです。アバカの手入れができず、肥料も与えなかったので多くが枯れ、残りも成長が止まっています」とのこと。今回モニタリング結果が良ければ、アバカを7000本に増やし、収穫時にスピンドルマシンを提供する【アバカ7000プロジェクト】を提案し、スタートさせる予定だった。

アブダラさんと数人の若者には7000本プロジェクトを紹介する時に「とても残念だけど、皆さんにも事情があるだろう。私たちの提案や支援はあなた達のリーダーシップや住民の集団力が欠かせません。私はその期待をあなた達に押し付けません。この地域だけではなく、支援を必要とする人々がたくさんいます。もし私たちの支援の継続を望むならば、あなた方若いリーダーたちの努力にかかっています。皆さんにも小さい子供がいるとの事ですので、こどもたちの教育や医療受診など、あなたたちの自立をあなたたちの努力で掴むべきです」

どうにか、彼らを奮起させることはできた。また、地域外から2人（サーバス& Raymond）の後見人候補をつけることも目処がたった。

さらに、アブダラさんの従兄弟が、近くの地区で2000本のアバカを所有していることが判明し、彼がこの地域でのアバカ生産を指導してくれることになりました。これからアバカの苗床（ナーサリイ）を作って、7000本プロジェクトのスタートラインに立ちました。しばらくはWilmaさんが現地訪問して支援していくそうです。



17 September 2024 活動紹介④ -アバカ生産農家_マライバイへの幹線道路付近にて



28kgのアバカの幹

マライバイのCan-Ayan村へ向かう途中でPhilFIDAマークさんが指導する農家を視察。スピンドルマシンでアバカ幹の第1層部分から高品質の繊維を抽出し、デコルティケーターで第2層とバナナの幹からあまり強くない繊維を抽出していた。また、ココナッツの木と木の間にカカオを栽培している。

家族経営の様子で、マンゴスティン、ランブータンなどの果実やアバカで作った手提げバックなどのお見上げショップもあり、「道の駅」や「地産地消」の言葉を思い出した



28kgから1.5kgのアバカ
繊維が抽出、乾燥後さら
に軽くなって出荷



ここではバナナの幹から
繊維を抽出している

18 September 2024

活動紹介⑤ - Fawesome Brakir's Corp.の訪問



北部ミンダナオでは唯一のアバカ繊維抽出マシンの製造工場

写真右:一つのエンジンでデコルティケーターとスピンドルマシンを稼働させるマシン

写真中:小型化したスピンドルマシン、でも200kgは超えている様子

写真右:工場の向こうは海、壁なし、土間、古い溶接機、5SやKY教育、設備投資が課題

経営者: Mr.Odilio U Aquino & Ms. Maria Chona P Aquino



活動紹介⑥ – Fu Dalu Agricultural Products Tradingの訪問



経営者: Mr. Robert Ghandi R. GRACES

アバカ繊維の集積・輸送、倉庫保管、仕分け、結束（グレード別に125kgで出荷）、バイヤーへの納品の他に、450ヘクタールのアバカ農園の経営やアバカ商品の開発や販売など事業拡大中。



アバカ繊維グレード

マニュアル

EF
S2
S3
I
G
H
JK
M1
Y1
Y2
O
T
WS

スピンドルマシン

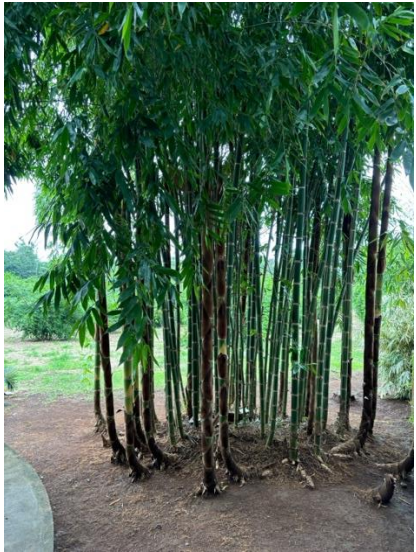
S-EF
S-S2
S-S3
S-I
S-G
S-H
S-JK
S-M1
S-Y1
S-Y2
S-O
S-T
S-WS

デコルティケーター: AD1, AD2, AD3, AD4, AD5



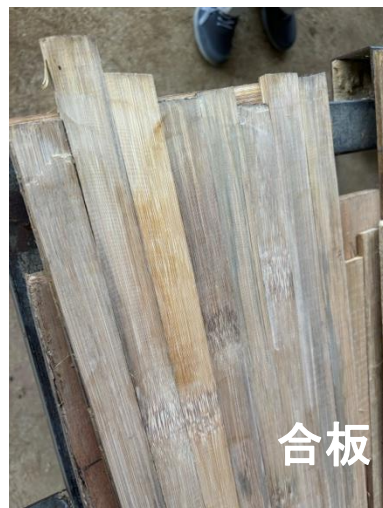
19 September 2024 活動紹介⑦ - Flowing Grain社のBobby氏との面談

Bobby氏は昨年からアバカ生産を介してミンダナオの先住民族の生計向上支援活動の主力メンバーでした。しかし、今回訪れると友人たちがコロナパンデミック以前からやっているBANBOO PAVILIONの共同代表となっていました。ミンダナオ島には至る所で竹藪を目にします。またさまざまな竹の種類があるそうで、彼らが「Giant Bamboo」と呼ぶ品種は直径が20cm余りもあります。写真のパビリオン家屋の柱がGiant Bambooです。Bobbyさんの言葉(主旨)で印象に残ったのは「アバカと異なり植樹は簡単で、現在は至る所で竹は邪魔な存在である。先住民族の身近にある。これを使った製品の開発を行えば、地域住民は伐採した竹を売って現金収入を増やすことができる」。彼は、本来廃棄されてきた竹を素材にした生計向上支援を兼ねたビジネスを開始して、アバカの話題はどこかへ消えたけど、生計向上支援としては我々も関心を持って彼と交流していきます。



19 September 2024 活動紹介⑦ - Flowing Grain社のBobby氏との面談

BANBOO PAVILIONの製品紹介



今後の活動計画_Plan-A:アバカ苗床と植樹の拡大

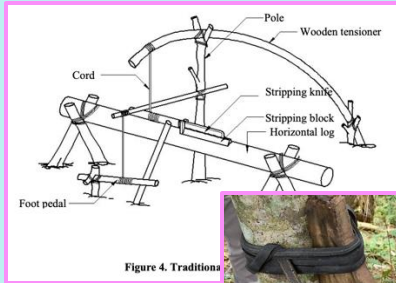
課題やニーズ		活動計画(案)
ミンダナオではDARATEXと呼ばれるアバカ品種が多いが、買い手はいない。 ミンダナオ島の潜在力を活かしていない。	支援するアバカ農家からDARATEXを廃棄して在来種に植え替える必要がある	@DARATEXの価値と流通の現状を調査する @DARATEXの存在を農民に教育する @DARATEXと在来種の見分け方を明確にする
	在来種の苗床(nursery / seedbed)で苗木を量産する必要がある	@苗床を行う場所と農家を特定する @株分の方法を訓練する →作業標準書作成+必要道具のリスト @種から発芽させる方法を訓練する →作業標準書作成+必要道具のリスト
	在来種の苗木を農家に無料提供する必要がある	@移植するタイミングや方法を訓練する →作業標準書作成+必要道具のリスト @肥料に関する知識や与えるタイミングを指導する @除草や枝葉の防虫、殺虫の訓練を行う →作業標準書作成+必要道具のリスト
	支援する地域で協働する組織や仲間を拡大する	@アバカ生産に関心を示す潜在力を持つ地域 @すでにアバカ生産に従事して支援のが必要な個人 @地方自治体やNGO

今後の活動計画_Plan-B:アバカ繊維の生産性向上支援

課題

アバカ農家
への
繊維抽出
装置
の普及が
遅れている

マニュアル装置



スピンドルマシン



デコルティケーター



活動計画(案)

- 1) アキノ鐵工所への指導及び設備投資(供与)
例> 経営者及び作業者の訓練: 溶接、設計、5S、KYなど
- 2) 装置の改造に関する調査・研究・開発活動
例> 溶接もしくはボルト締結構造で、鋼材をテーブル形状に作成する。
→ 山間部への輸送や装置の組立を簡素化し普及を促す
- 1) 価格が¥400,000で農家単位では購入できない小型で低価格の開発が求められる
- 2) 日本大使館「草の根スキーム」による供与
→ 可能性は?(試案)
- 1) デコによって抽出された繊維は価格が低い、廃棄されているアバカ幹の第2層からの繊維(弱い)を抽出できる。また、バナナ幹からの繊維抽出も可能である。
- 2) 日本大使館「草の根スキーム」による供与(試案)

今後の活動計画 Plan-C :アバカ取引の改善

課題やニーズ	活動計画(案)
アバカ農家は 中間業者 (ミドルマン) の仲介料で 収入が少ない	我々がミドルマン の役割を果たす ・ミドルマンの介在していない農園の開拓 ・支援対象地区のリーダー育成 ・アバカ農家の組合設立支援 ・アバカ生産、収穫、繊維化、流通等の教育訓練 ・チームワークの醸成を支援
	アバカバイヤー と直接商談 ・ミンダナオ南部のダバオ市にFTIとの交流 ・ミンダナオ北部のイリガン市にFu Dalu Agricultural Products Tradingの交流
	コミュニティの開発 ・コミュニティ住民の雇用やパートタイムの促進 →保管場所、繊維の分別、輸送など

今後の活動計画 (Plan-D_番外編): バナナ繊維の製品化による生計向上支援

収穫

繊維化

商品化

訓練

加工

販売

教育



収 穫: バナナの木は収穫後に伐採 → フィリピンはバナナ輸出国
→ 大量の廃棄物となっている

繊維化: デコルティケーターで繊維を抽出 → 廃棄物から資源

商品化: 繊維企業、NPO、学術機関などで調査、研究、開発
→ 例えばエコバックや室内用上履き(ワラ草履)

訓 練: 例えばワラ草履の作り方

加 工: コミュニティでの生産=組合の設立

販 売: ネット通販、フェアトレード

教育①: 貧困地域住民への家政学、保健、公衆衛生など

教育②: 日本の学生への生計向上支援(ボランティア)の体験学習

